熊井の森通信

２０２３年7月1日　第１９号

発行/熊井の森トラスト基金

〒３５０－０３１４　埼玉県比企郡鳩山町
楓ケ丘２－２－１かわせみハウス
NPO法人はとやま環境フォーラム気付
メール　kawasemi3001@gmail.com

☎０４９－２２７－３００１　FAX０４９－２７２－７０９２　ホームページ　https://hatoyama.info/

７・８月の活動

■熊井の森で毛呂神社の夜祭り

７月１５日（土）、コロナのため中止されていた毛呂神社のお祭りが３年ぶりに行われます。毛呂山町の出雲伊波比神社の祭神を祭る熊井の森にある神社で、熊井の夏の天王様として親しまれています。熊井の森の山の神の石碑もここに移設されています。この夜祭りでは笛、小太鼓、踊りなどで構成される屋台囃子（鳩山町指定無形民俗文化財）が、日頃お世話になっている地元の中島さん、植木さんら囃子保存会の皆さんによって演じられ、幻想的な夏の一夜を堪能できるでしょう。

集合時間は祭礼の始まる午後６時、神社前に集合。場所のわからない方は午後５時半、かわせみハウス集合。皆さんと一緒にお祭りを見学にいきましょう。

■熊井の森親睦ピザパーティーは中止

７月１６日（日）に予定していたピザパーティーは、毛呂神社のお祭り見学が前日にあるため中止します。

■トラスト地看板を設置

７月９日（日）と８月１３日（日）に、ピザ窯横と石場沼入口の２か所にトラスト地看板を設置します。設置によって、地域住民や散策等で熊井の森にやってきた人に、「日本ナショナル・トラウト協会の助成を受けて、里山保全のためのトラスト活動を行っている」と周知することになります。設置作業にご協力を。

■ピザ窯に登る階段を設置

７月２３日（日）に木材で階段を作ります。ピザ窯に登るとき、雨降りの後などには滑って危なかったのが改善されるはずです。資材は埼玉県の森林づくり補助金で揃えました。作業協力をよろしく。

■第１回町づくり懇談会を開催

７月１１日、午前１０時～１２時。かわせみハウス。鳩山町は今、町内の南比企窯跡群が国指定文化財になったことをきかっけに新たな活性化の気運が起こっています。それを機会に「里山という自然財産を活かした町づくりができないか」を話合います。ご参加をお待ちしています。

■第２回環境フォーラムの活動目標を話合う会

７月１９日（水）午前９時半、かわせみハウスにて。

■第３回熊井の森写真学校を開催

８月２６日（土）午前８時３０分、上熊井集落センターに集合。活動終了後、夜の生きもの観察会の準備へ。

■夜の生きもの観察会

イベント運営の協力者募集中。詳細は次号で掲載。

7 July　2023（令和５年）

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
25	26	27	28	29	30	1
2 ●資源回収	3	4 ●理事会	5	6	7 七夕	8
9 ●トラスト看板設置	10	11 ●町づくり懇談会	12	13	14	15 ●毛呂神社祭り
16	17 海の日	18	19 ●活動目標話合い	20	21	22
23 ●ピザ窯階段設置	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

8 August　2023（令和５年）

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
30	31	1	2	3	4	5
6 ●資源回収	7	8 立秋 ●理事会	9	10	11 山の日	12
13 ●トラスト看板設置	14	15 終戦記念日	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26 ●写真学校 ●夜の生きもの観察会
27	28	29	30	31	1	2

活動報告

■理事会で「駐車場確保」について協議

６月６日（火）定例理事会。出席は会員を含む７人。議事録作成は持ち回りで作成、２０日開催予定のワークショップは２１日に変更、町づくり懇談会の開催日程は7月11日、イベントの際は有料(1日3000円）でもいいから「上熊井集落センター」を利用すること、などが話し合われました。

■小雨の中、生きもの観察会を開催

６月１１日（日）午前１０時、大雨予報だったためか参加者は１人。小雨の中を石場沼横に車を止め、周辺樹木の葉っぱを６種類採取し、現況記録の撮影。かわせみハウスで「葉で見分ける樹木」図鑑を広げて名前を調べました。

■辻川右岸の藪の下草刈り

６月１８日（日）、ピザ窯に午前９時集合。参加者４人。葛藪の草刈りを予定していましたが、辻川右岸の河川工事等の関係でしばらくは様子を見ることになり、作業は辻川左岸の散策路と辻川の水遊び場と、ピザ窯と小峰家墓地と間の３か所の草刈りとなりました。ピザ窯栗林の地主の森さんが来られて挨拶。ヤマユリ保護のためイノシシよけの柵作りをされるそうです。

■社会貢献ワークショップに参加し交流

６月２２日（木）、鴻巣市で開催された「社会貢献ワークショップ」（埼玉県・たまサポ主催）に参加。社会貢献活動・地域活動に取り組む企業やＮＰＯ団体などが一堂に会して交流し、新たな連携づくりに役立てようという場で、熊井の森での活動をしっかりＰＲしてきました。

■熊井の森写真学校、新らしく３人がお仲間に

6月24日（土）午前8時30分～午後3時。参加料1500円（1回）、参加者13名。座学でネイチャーフォトの基本とフィールドでの撮影マナーの授業のあと、農村公園へ。

今回のテーマを「被写体を絞る」と決め、時期の花『紫陽花』をそれぞれの写し方で撮影。同じ被写体ながらもいろいろな見方があり、参加者の個性が出て全く違うものになり面白かった。弁当も美味しかったと好評でした。

読者の より

ホタルブクロ

■ホタルブクロが咲いてます

我が家の庭では、数日前からホタルブクロが咲いています。自生なのか、先住者が植えたのか。ほんの数株ですが時期を知らせてくれます。先月末からホタルも数匹見かけるようになりました。まだ自然はありますね。

（新井修・鳩山町下熊井）

■熊井の森パスポートはいかが

以前参加させて頂きありがとうございました。うちは子育て世代なので、子育て世代にはホタルは押しで、子供家族が集まると思います。自然を生かして、夏は虫取りに森を利用してはいかがでしょうか。男の子はカブトムシやセミ、集まると思います。ピザはその時にチラシを配るなり、子供が行きたいとなったら親は行くので、その際を利用しアプリ登録やコミュニティーを増やす。

子供はとにかくスタンプやシール集め好きなので、箇所ごとにスタンプを置く、集めるという熊井パスポートつくる。参加のたびに、もらえる。または規定以上何か(秘密隠し?)集めるともらえる等。景品は賞状などネットから印刷できますし、商品がなくても、表彰してあげるだけでとても喜ぶと思います。大事なのは物ではなく思い出、その瞬間ですから。また機会がありましたらお世話になります。（木下・川越市）

■第３２回二科会写真部埼玉支部展に入選

公募入賞入選作品の写真展（後援　埼玉県）が埼玉会館（7月１３～18日）、深谷市民文化会館（7月26～３０日）、所沢市民文化センター５階（８月２４～２７日）で開催されます。私の作品も展示されます。お時間がありましたら足をお運びください。

（熊井の森写真学校受講者・田子聡　東松山市）

■熊井の森づくりを話し合う会

当初、想定した「熊井の森づくりを話合う会」は、６月２１(水）に日程を変更。参加者は８人。テーマを熊井の森づくりを含む「環境フォーラムの活動目標」に広げて話合いました。

まず、討議テーマ提案者が説明。①自然保護とまちづくりの２つの課題はどう一体化できるのか。現在行ってる各種イベントの目的はなにか。②まちづくり懇談会の目的と環境フォーラムからの提案の共有はなされているのか。③各種イベントでは予算にスタッフ人件費も計上すべきではないか。

つぎに、２００８年の環境フォーラムの設立から２０１５・２０１６年の２回の里山シンポジウムを経て、太陽光発電問題の浮上・トラスト地取得と現在に至る経緯を報告し、意見交換に入りました。

「熊井の森の価値を探ることと鳩山をどうするかとはチグハグ」「家庭菜園ではなく、共同作業で栽培した野菜を販売するのは面白い」「時代の変化の中で活動が地域おこしに繋がるのは自然なこと」「地域の人と仲良くやっていくのが大切」「百年先も豊かな森であってほしい」「参加者を募るDMリストをつくろう」「試行錯誤を積み重ねるしかない」「イベント運営協力者への対価は払っていいが、日常的業務従事者の対価はどうなのか」など活発な意見交換がありました。

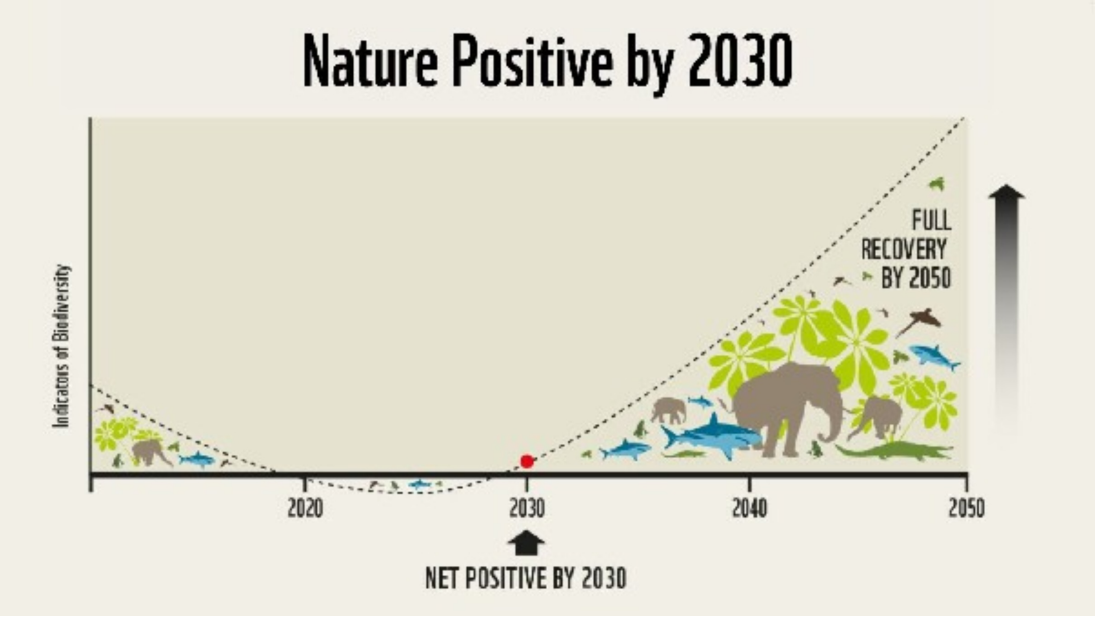
【決まったこと】月１回、３回開催をめど。次回は７月１９日（水）午前9時半～１２時、かわせみハウス。テーマは開催までに各自がメールで出し合って決める。

熊井の森から鳩山町のネイチャーポジティブ実現を

高川晋一　（公益財団法人日本自然保護協会）

日本自然保護協会は1951年から全国各地で活動を続ける自然保護団体です。当会が熊井の森に関わったきっかけは2015年の地元講演会からで、その後も、モニタリングサイト1000里地調査にご協力いただくなど、お付き合いを続けさせていただいてきました。

私自身が初めて現地を訪れたのは2017年で、また、2020年に太陽光発電の開発計画が立ち上がり当会から鳩山町に意見書を提出した際にも何度か現地を歩かせて頂きました。初めて現地を訪れた時、モミ林の想像以上の面積規模と巨木の荘厳さにとても驚いたことをよく覚えています。これほどのモミ林が発達することは稀なため、過去にどんな人と森との特別な関係があったのか、今でも興味が尽きません。また、周辺に多様なタイプの森林や湿地・農地が広がっていることも、生物多様性豊かな土地となっている理由の一つだと感じました。



▲出典：https://www.naturepositive.org　より転載

▲日本自然保護協会・日本野鳥の会・世界自然保護基金ジャパンの3団体が「熊井の森」の保全と太陽光発電の抑制を要望(2020年2月22日)

さらにもう一つ素晴らしい特徴だと感じていることは、様々な興味・世代の方々が、農業、自然環境保全、レクリエーション、健康、自然体験、環境教育など実に様々な目的でこの森に関わられていることです。まさに町にとって大きな価値を生み出している場だと言えます。

▲高川晋一さん

現在、熊井の森のような場所が注目を集めています。理由の一つは、2022年に生物多様性保全に関する新しい国際目標が決まったことです。この新目標では、2030年までに自然の回復を実現させること（「ネイチャーポジティブ」と呼ばれます）、その手段として陸と海の面積の30%を保護地域にすること、そして市民や地権者が自然を守り継いできた場所も「OECM」という新たな種類の保護地域として登録していく事などが決まりました。日本でもこのOECMを「自然共生サイト」という名前を付けて国際登録していく新制度が2023年から環境省により開始されたところです。この自然共生サイトでは、個々の地域で自然が様々な形で利用されていることも重視されています。まさに熊井の森は「自然共生サイト」にぴったりな場所だと言えますので、是非登録を検討されてはいかがでしょうか。

また並行して日本自然保護協会では、この国の制度を強化できるよう、新プロジェクトを立ち上げました。各自治体と協力して市区町村ごとのネイチャーポジティブを目指すとともに、現場で不足する人手・資金を補えるよう企業とのマッチングを行うというものです。現在群馬県や埼玉県所沢市で事業を開始しており、他の自治体でも展開できるよう準備を進めていますので、こうご期待下さい。

▲日本自然保護協会スタッフが熊井の森視察＆懇親ピザピクニック（２０１９年４月）

ニーハオ　熊井の森歳時記

ドクダミ　漢方でも野菜でも

６月中旬ある雨の日、熊井の森に作家・井上理津子さんとドクダミを採りに行った。地面いっぺんに咲き誇るドクダミは普段より清々しい雰囲気が漂っていた。癒し風景のひとつ。

だが、独特の匂いがあるため、ドクダミは多くの人に嫌われているようで。中国ではこの植物のことを「魚腥草」（ユゥシンツァオ）と呼ぶ。「魚腥」は魚の青臭いの意味。けれど、この匂いの成分には殺菌作用があり、肌荒れの原因となる細菌の働きを抑制する効果がある。井上さんは毎年田舎まで足を運んでドクダミを採り、焼酎に浸けて化粧水を作るのもこの理由だそう。ドクダミ茶も利尿・解毒・便秘解消の効果がある。中国の西南地方においては、ドクダミの葉っぱと白い根っこはともに貴重な野菜であり、燻製肉との炒めものや火鍋の素などいろんな料理に活躍。実に宝物の薬草。いったいどんな味かな。今度自分でも作ってみよう。

実は一昨年、庭先で楽に観賞と収獲するため、山から採ってきた数本のドクダミを植えてみたが、地下茎が無限に繁殖していろんなところに出てきてしまうのが悩みだ。（王　菲）

熊井の森畑日記　ハトムギものがたり⑤

台風が来る　ハトムギを守れ

5月の植え付け時には15㎝ほどの苗が、雨と日射しを受けてグングンと育ち、7月には1m以上に育った。イネ科の花らしい地味な花が咲き、小さな緑色の実もつき始めた。順調に育つハトムギにほっとしていたが、この時期、心配ごとがおきてきた。そう、夏と言えば、台風。

最初は1本だった株元が数本に増えて、しっかり根付いているように見えたが、葉は弱々しく風になびいている。それを見ると、台風の強い風に倒れてしまうんじゃないかと気になってきた。

そこで、強風に倒されないように、泥水に汚れないようにと、畑の横の竹を切って、畑の周囲と畝の間数か所に柵を作ろうというアイデアが出た。必要な作業かどうかは分からないけど、素人ならではの無鉄砲さで、なんでもやってみようと設置した。やはり、効果はてきめんで、無事に台風をやり過ごせた。

後で地元の農家さんに聞くと、ハトムギに水やりや、風対策の柵づくりなんかしたことないよ、とのことだった。そうか、心配しなくても良かったかもしれな。けれど、私たちの柵は、無事に、ハトムギを収穫まで守ってくれたのでした。（嵯峨　千代美）

熊井の森トラスト地紹介
第５・６号地

地　番／鳩山町熊井1319～1321
面　積／2,638㎡　地目／山林・原野
取得年月／２０２２年１月

▲トラスト５・６号地の湿地

トラスト５・６号地は熊井の森の中核をなすため池（石場沼）の上部に位置し、かつては水田であったところが今は湿地に変わっているエリアに隣接した平坦部である。トウキョウサンショウウオやアカガエルなどの水生生物の生息地で、猛禽類などの貴重な餌場となっており、このエリアの保全の意義は大きい。

と同時に、昨年の水害での崩落で、通行不能になったトレイルをどう復旧するか、周辺のビオトープづくりとの関連でどう里山づくりを行うか。専門家のアドバイスを仰ぎながら、みんなで話合って取り組むべき場所である。

熊井の森へのアクセス

【バス】東武東上線「高坂駅」西口広場で町営路線バス　「越生駅・上熊井方面行」８:１５発(約２０分)に乗車→「上熊井」バス停下車、徒歩３分。

【クルマ】関越自動車道坂戸西スマートIC下車　→鳩山町役場　→　鳩山駐在所を左折し県道４１号線を越生方向に走ると、左側に上熊井農産物直売所（ちょっくま）あり。そこから熊井の森へ。

編集雑記　今号から本文の活字を１０ポイントに少し大きく。／ちょっくまの買い物客から「このあたりでちょっと散歩したけど、いい所ありませんか」としばしば声を掛けられるが答えに詰まる。環境フォーラム作成「トレイルmap」は自然学習のためのガイドであって、散歩道マップではないのだ。／日本環境教育フォーラム設立３０周年記念シンポ（ネイチャーポジティブの達成に向けて）に参加。その後の懇親会で専門家から熊井の森保全の具体策となりうる貴重なアイデアを伺った。（愛場）